

## 別紙様式 1

### 令和 4 年度音戸中学校区研究推進計画

校番 ( 2 8 ) ( 呉市立音戸小 ) 学校

校長名 平本 悟

#### 1 学校教育目標

夢 ( 志 ) をもち 自ら動き たくましく生活する 児童の育成

#### 2 目指す児童生徒像

ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成

#### 3 育成を目指す資質・能力 ( 具体の姿 )

資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて適切な調べ方を選択して集めた情報を批判的に分析・整理して、効果的に表現することができる。	様々なコミュニケーションを通して、思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、地域社会に参画しようとする。
中期		目的に応じて調べ方を工夫し、収集した情報を目的意識や相手意識を持ちながら分析、整理して、表現することができる。	コミュニケーションを通して、互いの良さを生かし、協働して解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、自分ができることを考え、実践しようとする。
前期		多様な調べ方を知り、収集した情報を比較したり、関係付けたりしながら分析して、整理することができる。	他者とコミュニケーションをとりながら、協働して、課題を解決することができる。	学んだことを自分の生活や地域 ( 音戸 ) のために生かそうとする。

#### 4 研究主題等

##### (1) 研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

##### (2) 設定理由 ( 校区の児童生徒の課題分析等 )

昨年度は主体的に学ぶ児童生徒の育成のため、学力向上部会では、「思考表現する力」に判断力を加えた「思考力・判断力・表現力」を中心とする資質・能力の向上を目指した単元・授業づくりに取り組んだ。児童生徒の思考力・判断力・表現力を深める手立てとしては、授業に「考えたくなる課題」「考え、表出する場」「考えの変容を自覚させる工夫」を設定した。また、生徒指導部会では、自己肯定感を高める取組を、生活向上部会では、生活リズムの確立の取組を行い、

主題とする児童生徒の育成を図った。

学力向上部会の成果としては、「思考力・判断力・表現力」のルーブリック評価でB以上の児童生徒の割合は、小学校86%、中学校75%となった。これは、各校でICTの活用を推進し、課題設定の場面や考えを共有する場、ペアやグループで思考する場を取り入れたことによると考えられる。一方、学力調査の結果をみると、国語では「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける。」ことに、算数では、「式の意味を理解し、立式し答えを導く。」など、中学校区で育成すべき資質・能力における「思考力・判断力・表現力」には課題が残る。

生徒指導部会での成果として、波多見小では、自己肯定感を測る項目に肯定的回答をした児童が93%だった。取組として、挨拶名人の認定や行事等では他学年からの肯定的な評価をもらえることにより、お互いに「認め合う」風土ができたと考えられる。一方課題としては、音戸小学校、音戸中学校では依然として自己肯定感の低さがあげられる。音戸小学校では76%、音戸中学校も1年生は45%に留まっている。

生活向上部会の成果として、目標を自己決定させることで、目標の意識化が進み、メディア時間をコントロールしようとしている児童生徒が増えてきている。中学校のテスト週間に合わせ、小学校でも生活リズム週間を設け、早寝早起き、ノーメディアなどの項目について整えたことが効果を上げた。

これらを踏まえ、本年度も引き続き3つの部会の取組をもって主題とする児童生徒の育成を目指していく。また、タブレットを使い、他者との意見交流を活性化させることにより、学び合う児童生徒の姿に迫りたい。

### (3) 研究仮説

「中学校区で育成すべき資質・能力」についての児童用、教師用ルーブリックを作成し、音戸中学校区授業モデルに基づいた「思考力・判断力・表現力」の向上を目指す単元・授業づくりや生徒指導、及び生活向上の取組を進めていくことにより、主体的に学び合う児童生徒が育成されるだろう。

## 5 研究内容

### (1) 「思考力・判断力・表現力」の向上をめざした単元づくり・授業づくり

「学力向上部会」には養護教諭以外の全員が所属し、「育成すべき資質・能力」のうち「思考力・判断力・表現力」の向上を目指した授業を立案・実践する。

### (2) 児童生徒の課題把握と生徒指導

「生徒指導部会」を生徒指導主事で構成し、生徒指導の三機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」ことを活かした取組を進め、児童生徒の自尊感情や自己有用感を高める。

### (3) 生活リズムの確立と電子メディアコントロール

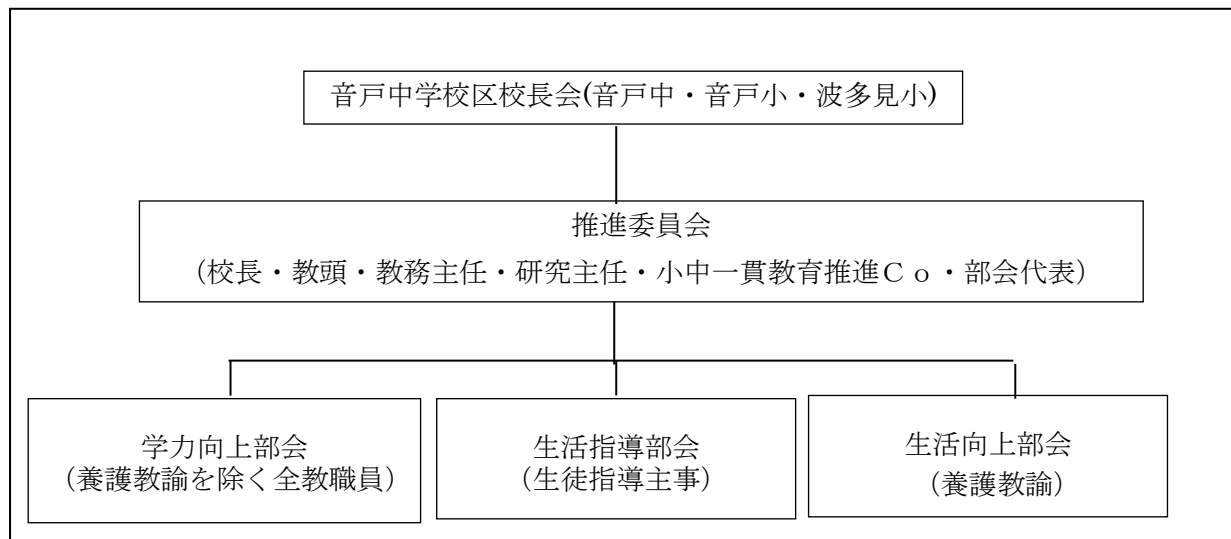
「生活向上部会」を養護教諭・教務主任又は研究主任で構成し、生活リズムの確立と電子メディアコントロールによって、主体的に学習に向かう姿勢の土台を育む。

## 6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒の思考力・判断力・表現力は育ったか。	単元末テスト	平均到達値	—	1～6年75% 7～9年60%
	県学習意識調査の質問紙	児童生徒の肯定的評価	—	80%
② 自己肯定感が高まったか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価	1～6年84% 7～9年65%	1～6年85% 7～9年70%
③ 生活リズムの確立はなされたか。	生活リズムカード	各学年の目標を達成している児童生徒の割合	—	80%

## 7 推進体制等

### (1) 推進組織



### (2) 一部教科担任制実施計画

#### ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・小学校第5学年 総合的な学習の時間 (3学期実施)

(小→中)

- ・中学校の夏休みの学力補充支援

イ 小学校教科担任制等

- ・波多見小 第3学年，第4学年，第5学年，第6学年（音楽）  
第5学年，第6学年（家庭科）  
第3学年，第4学年（図工）
- ・音戸小 第3学年，第4学年，第5学年，第6学年（理科）  
第5学年，第6学年（家庭科）  
第1学年，第2学年，第3学年，第4学年，第5学年，第6学年（音楽）

8 推進計画

月 日	内容		
	音戸中	音戸小	波多見小
4月28日	音戸中学校区小中合同研修（今年度の方向性の確認）		
5月			
6月		授業研究	授業研究
7月			
8月			
9月	音戸中学校区小中合同授業研修（音戸中）		
		授業研究	
10月		授業研究	授業研究
11月			授業研究
12月			
1月	異学年交流（中1里帰り）	異学年交流（中1里帰り）	異学年交流（中1里帰り）
2月	音戸中学校区小中合同研修（今年度の成果と課題，次年度に向けて）		

9 その他

- ・年3回小中一貫便りを発行する

※ 研究構想図，カリキュラムマップを添付する。